

森成さん(会員外・新協建設つながりより参加)、遅れて三浦さん(東京支部・象地域設計)、小野の3名で、宮城へ足を運んできました。簡単ではありますが、以下にて記録報告といたします。

■ 5月27日(金) 曇りときどき雨

8:00 東京発 東北新幹線にて出発、

仙台駅の観光案内所で地図を入手し、昼食をとりつつ、ルートを検討。

12:00 駅レンタカー(事前に予約済・東西通路に窓口があり便利)で出発。

国道45号線を北上しました。

○仙台駅周辺は、中高層建築のタイルはくり・落下、木造住宅も瓦葺住宅の棟瓦周辺のズレなどが散見される程度。街の様子も日常を取り戻している印象。

○多賀城市から塩竈市に入り、港(中心部)に下ると湾周辺の比較的古い木造商店建築(間口が狭く開いたプランの影響もあるか)に傾斜や半壊の建築が多く見られ、足場やシートが架けられた様子が見られました。津波の影響は見られないようでした。

○松島町は、観光船も動いており、建築も改修などを進めているものがちらほら見られる程度で、観光復活されている印象でした。津波の影響もないように見えました。

13:30 東松山市・小野市民センターのコンテナお風呂へ

○市役所が隣にある避難所拠点。自衛隊設営のシャワーテントもありました。また隣接した体育館が安置所になっており、警察の方が看守されていました。

○このセンター周辺も津波の影響を多少受けているようでした(水路のフェンスが倒れていたり程度)。

○このセンターの海寄りの国道45号線が緩やかな土手となっており、この国道から海側の津波被害が顕著でした。

14:00 石巻港へ近づこうとするが、あらゆる箇所が通行止め。

○45号線から海よりに潜入。瓦礫処理のダンプが行き交っており、津波被害が顕著な地域です。道路が沈み海の水が引かずに通行できない場所などもありました。

○ここから女川町を目指そうとしましたが、あまりに海よりからアプローチしようとしたためか、女川方向が通行止めとなっていたのと、時間が押してきたこともあり、45号線にもどり北上して、佐々木さんの拠点の十三浜を目指します。

○千代崎さんから電話があり北上川の河口がわの橋は通れないという情報をいただいたので、川の北側を沿うように向かいました。(道路改修工事があちこちで行なわれており舗装されていないガタガタ道を、迂回しながら進みます。)

15:45 佐々木さんの拠点、十三浜に着く。

○佐々木さんが来られる前に、事前に聞いていました作業を行いました。(残された床下地板を外して釘を抜いておく。) 等道具は用意がありました。) ~17:00 くらいで休憩。



17:00 佐々木さんが来られ合流。

○明日、あさっての天候が雨だとお手伝いが難しいかもしれないとしながら、工具のありかを教えていただき、いらっしやなくても作業できるように打ち合わせました。天候をみて連絡を入れさせていただきことにしました。

17:30 東海大学・杉本教授と学生さんが合流。

○先週 5/22 (日) 東京で行なわれた NPO 木の建築フォーラムにて、杉本先生の研究室による「どんぐりはうす」という、木をブロックのように加工したものを組み合わせていく、職人不要でつくる木の仮設住宅提案が、大船渡市泊地区の公民館で採用されたという報告がありました。これを、今十三浜地域の高台(運動公園)にプレハブ仮設住宅が作られている一角に、やはり公民館としてつくることが決まったとのことで、その配置の下見に来られたとのことで、それに同行させていただきました。

○隣の地区となる白浜地区の高台(元ホテルが建っていたという見晴らしの良い場所)に工学院大学が関与して、定期借地権付の本設復興住宅計画が決まったというその場所をご案内いただき視察しました。

18:30 白浜を出発し、仙台に向かう。(河北 IC から三陸自動車道で仙台港北 IC ルート)

○片側 1 車線のところも多く、たびたび渋滞。

20:30 過ぎころ、北山のサポートイン仙台に到着。

○三浦さんは 16 時過ぎころ仙台に着いたとの事(徒歩圏で様子を見て歩かれた)でしたが、ほぼ同時にサポートイン仙台で合流。夜は、翌日・翌々日の行動作戦会議。

## ■ 5月28日(土) 雨

8:30 出発。宮城野区の七北田川に沿って海よりへ

○津波の影響は見られない様子でした。地震による被害は、これまで見てきた程度。

→仙台東 IC 辺りから仙台東部道路に沿って一般道を走る。

○仙台東部道路より海よりは、津波被害が顕著な地域。

→さらに海寄りを走り、荒浜地区～ゆり上大橋を渡ってゆり上地区～名取市文化会館へ

○津波被害が顕著な地域。

10:30 名取市文化会館で宮城災対連主催の「移動なんでも相談会」に参加。(14時までのところ 12:45 頃までとさせていただいた。)

○宮城県労連・副議長：安藤満さんと名刺交換。連絡先は相談会チラシと同じです。この方がこの日の相談会のまとめ役でした。今後の宮城の災対連の窓口になると思います。

○天候もあつてか、相談者はあまり多くはありませんでした。唯一相談で話した方は、ゆり上地区で、すべてを流され、仮設住宅に当たってそこに住み始めたという男性。(瓦礫処理



などを日当で働いているとの事) 住宅ローンが残っている。

(約 14 万/月) 娘の名義もあるが今は結婚しているが名義はそのまま。通帳の再発行もうまく進んでいない。約 3 ヶ月放ってあるが、そろそろいろいろな引き落としが始まってきた。請求が来るのではないかと思うが払えない。不安だ。仮に義援金のようなものが入ってきたとしてもあつという間にそこに消えていくだろう。

←自治体などで、二重ローン対策を検討しているようだが、今だ決まっていないので、今の状況では慌てて返さなくてもいいのではないかと。といった内容及び対応でした。

○炊き出しの牛汁をいただき、失礼させていただきました。

みなさんすごく元気に運営されていました。

○余談ですが、この名取市文化会館は避難所にもなっており、この日、サッカー日本代表の選手たちが慰問に訪れて、子どもたちとも触れ合っていました。(この日の NHK ニュースでやっていました。)

### 13 : 00 名取市美田園駅周辺の木造仮設住宅をみる

○埼玉のハウスメーカーと住友林業とが関与されているようです。木造というだけで、その後の復興住宅へ活かせるつくりになっているかは疑問です。結局 2 年後 (実際はもっとか) これらがまた廃棄物になってしまうことになるのだろうと思われまます。バリアフリー棟などもありました。(スロープアプローチが付いている。)

→ゆり上地区の深部 (大橋から海よりの少し家屋が残っているように見える) へ潜入を試みるもやはり通行止めで断念。

→名取 IC から石巻河南 IC~398 号線で女川町を目指す。

○昨日とは違う道から、女川方面に入ることができた。

○石巻湾からの津波の影響は顕著でしたが、万石浦に面した国道沿いは、津波は来ていないようでした。普段から波の影響を受けずに養殖が盛んな静かなエリアのようでした。

○静かな万石浦から離れ、山を乗り越えるように女川町へゆっくり下っていくと、一気に景色が変わり津波被害のひどい状況へと豹変しました。

### 15 : 00 女川町中心地に到着

○S 造、RC 造が基礎杭もろとも引き抜かれて転倒した地域です。

○よくみると旧耐震の RC 造の古いもの (丸鋼でフープも @200) で、柱にせん断破壊が見られ、主筋が爆裂しているものも見られましたので、津波が来る前の本震ですすでに弱くなっていたことなどもあるのかもしれないと感じました。ボルトの曲がっている方向もまちまちになっており、引き波の強さやほかの障害物による破壊の影響もあったのだろうと想像しました。

○地盤が下がった影響か、海水が道路に入り込んだままの状態



で、ヘドロと塩のにおいが入り混じった臭気がありました  
→398号線をそのまま雄勝湾に沿うように北上する。

○この沿線沿いに入江となった場所に、時折あられる小さな集落は、ほぼすべて津波の被害で流されていました。

○雄勝町の中心部も壊滅的。小学校は耐震補強工事が行なわれていますが、サッシはすべて破れるようにしてなくなっており、構造スケルトンの状態となっています。

→北上川（十三浜へ行く橋はやはり通行止めのため）沿いに戻り（こちらの河川付近も津波被害が顕著）、河北ICから仙台東ICへと三陸自動車道で仙台へ戻り、夜食を仙台市内でとりサポートイン仙台に到着。（約20:30）

## ■5月29日（日）雨

8:30 出発長町の再開発地域へ

○旧市街地エリアに被害が出ていると聞いていたが、すでに更地になっていた。

○プレハブ仮設住宅の建設が進んでいた。

→太白区役所周辺道路の液状化

○道路は改修工事が進んでいるせいか、数箇所ゆがみや噴砂が見られた程度でした。

○緑ヶ丘の傾斜地の造成宅地地すべり場所を見ようと探しましたが探しきれず。1, 2丁目周辺は、同様の傾斜地ではありませんでしたが特に大きな被害は無いようでした。

※緑ヶ丘4丁目に被害が多くあったと後から聞きました。

→東北工業大学キャンパス

○耐震補強工事が行なわれており、キャンパス内に若干噴砂がみられたものの、特に被害は無い様子でした。

→東北大学、建築学科棟の被害

○建築学科の棟が、耐震補強したにも関わらず被害が出たと日経等で取り上げられていた。竹中工務店で、その補修工事が行なわれていました。近日その工事も終了するとの事でした。

11:30 レンタカー返却、徒歩で、昼食をとりつつ、仙台メディアテーク（伊藤豊雄設計）などを見ながら、「復旧・復興支援みやぎ県民のつどい」の会場のある、仙台国際センターへ。（12:30着）

13:30~16:30 塩崎先生等の書籍販売コーナーの窓口でお手伝いをする

○講演参加者は、約300名。

○被害のひどかった地域の方たちの生の声の持つチカラと参加者の方々の「つどい」への期待の高さを感じられました。

○塩崎先生の講演は、私は始めて聞きましたが、引き込まれました。復興災害に気をつけて、生活再建を根っこにした考え方を伝えて、地道な復興計画を。といった点に集約された感じがしました。特区構想についての問題なども「つどい」でしっかり対抗していこう。といったことが確認されました。

17:38 仙台発東北新幹線で帰路につきました。（以上）

